

2009年度農村計画委員会秋季学術研究会「農村と計画研究のフロンティア」

我が国の農村計画学の研究は、大正年間まで遡りさまざまな研究者の努力や創造性によりこれまで発展を遂げてきた。本研究会では、先端的研究のすぐれた知見を共有するとともに、これまでの研究思潮の流れを意識しながら、これからの農村の計画研究、農村のこれからの展望を共有することを目的とする。具体的に第一部では、まず歴史的、環境デザイン的視点を持つ正統的な研究を、次にこうした物的環境をいかに地域づくりにつなげるかという新しい流れに属する研究を紹介する。つまり、長年に渡り積み上げられてきた人々の営為を対象とする研究から、新しい価値観、枠組みによる新たな取り組みを対象とする研究へと流れが変わりつつあるが、双方が相互補完・批判的検討をいあえるような論点の整理を行うことが、農村計画学研究のこれからの展開に必要であると考えた。さらに、第二部では、若手を中心とするワークショップを行い、第一部の研究としての方法論、現象の捉え方を踏まえながらも、農村のこれからのについても一定の展望を示す。広く大学院生、学部生の参加を募り、若い感性による斬新な議論を期待したい。

主催 農村計画委員会

日時 2009年10月10日(土) 13:00~18:00

会場 建築会館・本会会議室(東京都港区芝5-26-20)

【プログラム】 司会：斎尾直子(筑波大学)・齋藤幸彦(幹事/千葉大学)

第一部 農村計画学研究のフロンティア

- ①主旨説明 : 三橋伸夫(農村計画委員会委員長/宇都宮大学)
- ②地域空間計画からみた北海道開拓と都市・村落の発展：柳田良造(岐阜市立女子短期大学)
- ③島嶼集落における文化遺産の管理に関する研究 — 竹富島を事例として
: 池ノ上真一(日本ナショナルトラスト)
- ④質疑応答
- ⑤まとめと講評 : 岩田俊二(三重短期大学)

第二部 若手研究者と語る農村のフロンティア — 農村の明日を問うワークショップ

ワークショップ進行：山崎義人(兵庫県立大学)・内平隆之(神戸大学)・川口友子(農村企画開発委員会)・平田隆行(和歌山大学)・根来宏典(根来宏典建築研究所)・藤沢直樹(日本大学)・山口忠志(ミカミ)・北澤大祐(農村環境整備センター)・前野真吾(日本大学)

テーマ1【都市近郊農村のこれから】 人口減少時代の開発圧力、撤退する都市・住宅地と農村、ラーバンの実現性、ガバナンス

テーマ2【中山間地域農村のこれから】 むらづくりの担い手は、限界集落と撤退、むらづくりの持続可能性、ガバナンス、NPO、Iターンの可能性

テーマ3【住民参加のこれから】 住民参加の限界と可能性、参加の範囲、参加で解決できること・できないこと、専門家の役割のこれから

テーマ4【新たな「農」のこれから】 農業の行方、新しい農としてのグリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、バイオマスの展望と可能性、どのような農村で有効か、どのくらいの数・割合の農村をターゲットとするのか、自然再生

- ①主旨説明 : 齋藤雪彦(前掲)
- ②ワークショップ開始
- ③各班の発表
- ④講評とまとめ : 岡田知子(同幹事/西日本工業大学)

定員 40名(申込み先着順)

参加費(資料代含む) 会員1,500円、登録メンバー1,800円、会員外2,000円、学生1,000円

申込方法 E-mailにて「催し物名称、会員種別および(本会会員の場合)会員番号、氏名、勤務先・所属、電話番号、E-mailアドレス」を明記のうえお申し込みください。

*会員番号の記載がない場合は、会員外として扱わせていただきます。ご了承ください。

申込み・問合せ 齋藤雪彦(千葉大学大学院園芸学研究科) E-mail: ysait8971arch@faculty.chiba-u.jp